

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

“強い河南”“優しく、華やぐ河南”のスローガンのもと、 学習・部活動・行事、すべてに全力で取り組み、生徒一人ひとりが躍動する学校
1 21 世紀の社会を力強く生き抜くために、将来に向けた高い目標を掲げ挑戦する、「強さ」と「優しさ」を併せ持つ「幹」の太い生徒の育成
2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって、地域の“強い”普通科高校としての魅力を、さらに発展させる
3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む

2 中期的目標

1 「自ら考え行動する生徒」の育成 高い規範意識のもと、自立心を持ち、自ら考え行動し、他者を思いやることのできる生徒を育成する。 (1) 学年・分掌・委員会が連携し、学習・部活動・行事、すべての教育活動を通して人間力を育成する。 ア 規律正しい生活の下、高い規範意識を持ち、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。 イ 人権教育を推進し、多様性を尊重し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安全・安心な学校づくりに取り組む。 ウ 多様な講演会や説明会・体験活動・高大連携授業等の教育活動を通して、自らの将来を主体的に考え、目標に向かって挑戦する力を育成する。 (2) 学校行事や部活動等、校内外の教育活動に、積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。 ア 運動系・文化系とも、部活動による対外試合・公演、中学生との交流や地域での活動を通して、主体性やリーダーシップを育む。 イ 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感や進路実現への意識向上を図る。 ウ 中高交流や学校説明会への在校生の積極的な参加を促進し、学校の魅力を発信するとともに、河南高校生としての「誇り」を持たせる。 ※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(R3:86%、R4:85%、R5:89%)、「学校生活に満足している」(R3:84%、R4:84%、R5:88%)の項目をどちらも令和8年度には90%をめざす。また、「部活動に積極的に参加」の項目は、令和8年度100%(R3:96%、R4:94%、R5:95%)をめざす。
2 希望の進路を実現する確かな学力の育成 (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を進め、学習習慣の確実な定着を図る。 ア 学習指導要領及び大学入試改革に対応した教育課程への移行をスムーズに行い、かつ生徒の希望進路実現を叶える授業を展開する。研究授業等を積極的に 行い、授業アンケート・学校教育自己診断等の分析を踏まえ、授業力向上PTを中心に、組織的に授業力の向上を図る。 イ 授業改善・授業力向上の取組みを継承するとともに、ICT 機器及び様々な教育ツールと1人1台端末の活用による授業の工夫・改善に努め、さらに質の高い 授業をめざす。 ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい(R3:77%、R4:81%、R5:83%)」「教え方の工夫(R3:88%、R4:87%、R5:89%)」の項目を令和8 年度にはどちらも90%をめざす。 (2) 希望の進路を実現するための学力の育成 ア 自学自習の確実な定着を図り、授業への集中と、学習に向かう意欲をさらに向上させる。 イ 習熟度別・進路別少人数授業を行い、きめ細かな授業を展開する。 ウ 実用英語検定資格の取得に挑戦することにより、進路実現に結びつく英語力及びグローバル社会に対応した英語の基礎力を養成する。 エ 生徒の生活習慣や学力の現状を把握し、講習や補習等の教育活動や、自学自習のための環境整備を組織的、計画的に実施する。 オ e コース(esperanza:希望、education:教育)の取組みを継承し、充実した学習内容を提供し、生徒の希望進路を実現する。 ※国公立大学合格10名程度(R3:5名、R4:8名、R5:5名)、関西難関私立大学合格70名以上(R3:62名、R4:47名、R5:65名)を維持する。
3 安全で安心な学校生活のための生徒支援等の充実 (1) 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。 ア 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、SCやSSWと組織的な対応を促進する。 ※生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」(R3:57%、R4:60%、R5:65%)の項目を 令和8年度には70%以上をめざす。※R3から「担任の先生以外にも」の項目を追加。 (2) 「南海トラフ地震」を見据え、防災マニュアルを徹底するとともに、安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を具体的に知らされている(R3:87%、R4:93%、R5:91%)」の項目を令和8年度には100%をめざす。
4 提案型教員集団としての学校力のさらなる向上と働き方改革の推進 (1) 学習指導要領及び大学入試改革について引き続き研究し、効果的な指導実践につなげることで、教職員の自己評価の高揚と専門性の向上を図る。 (2) 人権研修をはじめとした効果的・効率的な研修を実施することで、学校運営への質の高い提案を可能にし、地域の普通科高校としての魅力を高める。 (3) 部活動指導員等の外部講師を活用し、効率的な部活動を推進するとともに、校務の効率化・平準化を図り時間外勤務時間の縮減に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
(1) 今年度、79 期生が8クラスとなり、若干であるが定員に満たなかった。しかしながら、他学年以上に学校生活に前向きに取り組んでいる。保護者アンケートの「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」は(88%)、また、「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。」「学校のHPや学校からのメール配信をよく見る。」も(88%)であり、保護者の学校への関心の高さが伺える。生徒アンケートの「学校へ行くのが楽しい。」は(92%)とさらに上昇し、生徒たちが学校で前向きに頑張っている様子が見て取れた。 生徒アンケートについては、多くの項目で肯定的評価が90%を超えるなど、良い結果が得られた。	〈第1回 令和6年7月2日〉 ・生徒確保のための広報について 広報委員に頑張ってもらいたいのが、教育行政の問題が大きい。少子化・無償化の影響を受けている。その中でも改善の余地はあると思うので頑張ってもらいたい。 ・生徒の学力について 79 期生が定員割れしたことで学力差が大きくなっているはず。河南高校が実施している習熟度別の学習などをもっとアピールしてもよいのでは。 ・次年度のクラス募集について どうなるのかが気になる。また入学した後どうなっているのかは心配。河南高校は地元の中学生が行きたい学校。そこが定員割れしているのは残念。私学も併願での戻りがなくて困っている。定員増を考えているところもあり、今後また大変になるのではと懸念。 ・地区別の進学者について

府立河南高等学校

教職員のアンケートにおいても、多くの項目で改善がみられた。教育力向上に向けた取組により「他の教員の授業を見学できる機会が多い。」は（92%）であった。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」「教育活動全般に渡る教科を行い、次年度の計画に生かしている。」は共に（75%）であり、次年度改善を図っていく。 （2） 生徒の授業に関する項目については、「全体的に授業はわかりやすい。」（88%）に上昇し、「先生の教え方には、さまざまな工夫がなされている。」（95%）の素晴らしい結果が得られた。授業力向上P Tの活動がさまざまな成果として着実に実を結んだものと考えられる。 「担任の先生以外にも保健室の先生や相談室の先生など、気軽に相談することができる先生がいる。」は（72%）に大幅に向上した。教育相談体制の改善の成果が徐々に出てきている。	近鉄電車での通学者が一番多い。富田林は数が激減している。 〈第2回 令和6年12月13日〉 ・進路状況に関して、学力低下の危機感について 観点別評価の導入により、考査の成績への受け止め方が変化してきた。考査の点数が低くても危機感がなく、よって学力が向上しにくいのではと感じている。 部活動、その他さまざまなことに時間を取られている生徒にとって授業は大切。授業力向上 PT の取り組みでもあるように、授業を大切にし、授業時間で向上させていく意識を学校全体でもっていきたい。 ・約3割の生徒が指定校推薦を選択しているとについて 指定校推薦を選択する生徒の中に、より難易度の高い大学にチャレンジできる可能性のある生徒はいるが、生徒・保護者も含めて早く進路を決めたいという意識が強く、その選択になる生徒が多い。 ・学校行事のキャッシュレス決済について 電子マネー決済の導入は、様々なキャッシュレス決済がある中で、その電子マネー決済が学校の文化祭の導入に積極的であったため。今後も続けていくのかは検討していきたい。 〈第3回 令和7年3月25日〉 ・進路結果について、一般で最後まで受験している生徒が多いことは素晴らしい。 ・広報活動について、説明会の時期、時期に応じた説明内容の検討をしていく必要があるのではないか。データを分析し、どの時期にどのような中学生が来ているかを把握し、それに基づいてアピールポイントをはっきりしていくことが大切。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 幹の 太い 生徒の 育成	（1）人間力の育成 ア 規律正しい生活、高い規範意識	（1） ア・生活指導部と特活部との連携を強化し、挨拶の励行からはじまる規範意識のさらなる向上に努める。	（1） ア・学校教育自己診断「学校生活に関して先生の指導は適切である」の項目 85%以上をめざす。[84%]	（1） ア・「学校生活に関して先生の指導は適切である」は、91%となり、85%以上を維持した。 （○）
	イ 人権教育の推進	イ・3年間を通した人権教育計画により、生徒の人権意識の向上を図る。 ・いじめの未然予防、早期発見に努め、すべてにおいて組織全体で対応していく。	イ・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の項目 90%以上を維持する。[97%] ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」 90%以上を維持する。[91%]	イ・生徒の「人権について学ぶ機会がある」は、講演会の効果で 98%となり、85%以上を維持した。 （○） ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」は、95%となり、90%以上を維持した。 （○）
	ウ キャリア教育の充実	ウ・大学の講演会や連携講座を通して生徒が卒業後の進路について考えるキャリア教育の取組みを充実させる。	ウ・「将来の生き方について考える機会がある」 90%以上を維持する。[92%]	ウ・「将来の生き方について考える機会がある」は、93%となり、90%を維持した。 （○）
	（2）課外活動の充実 ア 部活動の推進	（2） ア・学校行事や部活動への生徒の 100%に近い参加を継続していく。	（2） ア・学校教育自己診断「部活動に積極的に参加している」 90%以上を維持する。[95%] 「学校行事は楽しく、充実している」 90%以上を維持する。[93%]	（2） ア・「部活動に積極的に参加している」は 95%で、90%以上を維持した。加入率 90%以上も維持していく。 （○） 「学校行事は楽しく、充実している」は 95%で、90%以上を維持した。 （○）
	イ 地域及び他校種連携の充実	イ・部活動での中高交流において、生徒主体の地域連携を強化する。 ・地域の取組みや校種を超えた連携を拡げていく。	イ・部活動での中高交流を維持し、夏季休業中の「クラブ体験」「部活 Cup」も含め 5 回以上実施する。	イ・部活動での中高交流を維持し、夏季休業中の「クラブ体験」「部活 Cup」も含め 8 回以上実施した。 （○）
	ウ 生徒参加の学校魅力発信	ウ・参加者に河南高校の強みや魅力が伝わるような学校説明会・体験会の実施や、ホームページのさらなる改善を図る。	ウ・学校説明会への参加者数 800 名程度を維持し、満足度も約 90%以上を維持する。[約 750 名、90%] ホームページの年間閲覧数 10 万回以上とする。	ウ・学校説明会への参加者数は約 350 名（延べ約 800 名）で、満足度は 90%を超えた。 （○） ホームページの年間閲覧は 7 万 8 千回であった。 ※PC の更新により、ホームページが停止していたことの影響を受けた。 （△）

府立河南高等学校

2 進路実現のための確かな学力の育成	(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ア 学習指導要領と大学入試改革に対応した授業力向上 イ ICT ツールの活用による授業の工夫 (2) 希望進路の実現 ア 自学自習の確実な定着 イ 生徒のニーズを踏まえた授業展開の継続 ウ 実用英語検定資格の取得 エ 組織的・計画的な講習・補習・自習の取り組み オ e コース取組みを継承・推進する。	(1) ア・学習指導要領・大学入試改革を踏まえ、教員プロジェクトチームによる授業研究・授業力向上の取組みを継続する。 イ・1人1台端末の活用の幅を広げ、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開し、学習習慣の確実な定着を図る。 (2) ア・予習・復習に基づいた、自学自習の確実な定着を図る。 イ・数学、英語の少人数展開授業により、苦手意識のある生徒の克服、得意生徒の学力向上を図る。 ウ・1、2年生の間に全員が英語検定を計画的に受験し、準2級以上の取得をめざす。 エ・授業外での学習時間が確保できる部活動の在り方に各顧問が取り組む。 ・生徒の学力推移・進路希望等の情報を学年、教科、分掌間で共有するとともに、生徒の希望進路に応じた学習内容、講習等を組織的・計画的に行う。 ・保護者への進路情報の提供に、さらに努めることで、進路指導の連携を強化する。 オ・e コースにおける体験学習・高大連携・発展学習を充実させ、進学意識の向上を図る。	(1) ア・学校教育自己診断、教員の「教育活動について教職員で日常的に共有し合っている」を85%以上に向上させる。[77%] イ・学校教育自己診断、生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている」。 [89%]「授業はわかりやすい」[83%]の項目について各々85%以上をめざす。 ・「1人1台端末を効果的に活用している」を90%以上に向上させる。[87%] (2) ア・学校教育自己診断の「予習や復習ができている」平均値3.0以上を維持する。[3.19] イ・生徒の少人数展開授業に対するアンケートにおける肯定度80%以上をめざす。 [英語 92.4%、数学 68.9%] ウ・英検準2級以上の合格者100名以上をめざす。[R3：60名、R4：221名、R5：115名] エ・学年、教科、分掌、部活動が連携し、自習室等の運営を行う。 ・R5年度の進学実績（国公立大学現役合格5名、関西難関私立大学現役合格65名）を上昇させる。 ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。 ・保護者向けの進路情報に関する講演会等を年度前半に1回実施する。 オ・e コース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者75%以上をめざす。[80%]	(1) ア・教員の「教育活動について教職員で日常的に共有し合っている」は、75%であった。(△) イ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている」は95%、「授業はわかりやすい」は88%で、85%以上を超えた。授業に関する生徒からの評価は、すべて向上している。(○) ・「1人1台端末を効果的に活用している」は、教員のICTの活用力の向上に伴い、93%に向上した。(○) (2) ア・学校教育自己診断の「予習や復習ができている」は、3.21で、平均値3.0以上を維持した。(○) イ・生徒の少人数展開授業に対するアンケート結果は、87.7%であった。 [英語 79.6%、数学 95.8%](○) ウ・英検準2級以上の合格者は308名であった。(○) エ・進路指導に係る教員研修の実施を、各分野で1回以上実施した。(○) ・進学実績（国公立大学現役合格7名、関西難関私立大学現役合格73名）であった。(○) ・卒業生アンケートを実施しなかった。 ・保護者向けの進路情報に関する講演会等を年度前半に1回実施した。(○) オ・e コース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者は50%であった。(△) ・次年度78期生のeコース希望者は40名を超え調整した。
3 安全で安心な学校生活	(1) 教育相談体制の充実 ア・生徒支援委員会を中心とする組織的対応 (2) 防災の取組みのさらなる推進 ア・実効的な防災訓練と連絡体制	(1) ア・生徒支援委員会と保健室、学年、人権教育推進委員会やSC・SSW、関係機関との連携をさらに深め、支援を必要とする生徒の把握と組織的な対応を継続する。 (2) ア・「南海トラフ地震」を見据え、実効的な防災訓練を工夫して実施するとともに、災害時の生徒・教職員の連絡体制の強化を図る。	(1) ア・学校教育自己診断、生徒の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」について、70%以上をめざす。[65%] (2) ア・災害時の連絡100%の体制を今年度も実現する。 学校教育自己診断、生徒の「災害時の行動を具体的に知らされている」について、100%にする。[91%]	(1) ア・生徒の「担任の先生以外にも悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」は72%に向上した。引き続き、相談体制の充実を図っていく。(○) (2) ア・災害時の連絡100%の体制の実現に近づき、「災害時の行動を具体的に知らされている」は95%であった。(○)

府立河南高等学校

4 学校力の向上と教職員の働き方改革の推進	(1) 教職員の専門性の向上 ア・最新の教育情報 (2) 「さらに魅力ある河南高校」のための提案型教員集団づくり ア・自己研鑽と研修 (3) 時間外勤務時間の縮減	(1) ア・最新の教育情報を取得し、校内での情報共有と実践研究を行う。 (2) ア・人権研修をはじめとした教職員向けの研修を効果的・効率的に実施し、さらに豊かな発想力を身に付け、予測不能な非常事態にも柔軟に対応し乗り越えていける同僚性の高い教職員集団を形成する。 (3) ア・校務の平準化を図り、時間外勤務時間の縮減と心身の健康の増進を図る。	(1) ア・学校教育自己診断、教員の「教育の諸問題や最新情報を把握し、資質向上に努めている」について、75%以上をめざす。[67%] (2) ア・学校教育自己診断、教員の「様々な研修を通じて研鑽に取り組んでいる。」について、80%以上をめざす。[70%] (3) ア・月当たり一人当たりの平均時間外勤務時間を 40 時間以内に抑える。 [36 時間 15 分]	1) ア・自己診断「教育の諸問題や最新情報を把握し、資質向上に努めている」は、71%に改善した。(○) (2) ア・自己診断「様々な研修を通じて研鑽に取り組んでいる。」は 79%に改善した。(○) (3) ア・月当たり一人当たりの平均時間外勤務時間は 36 時間 42 分であった。(○)
--------------------------	--	---	--	--